

令和4年度 食料自給率・食料自給力指標について

令和5年8月

農林水産省

目次

令和4年度の食料自給率・食料自給力指標(結果概要)	2
食料自給率① 食料自給率の基本的考え方	3
食料自給率② 令和4年度食料自給率・食料国産率(カロリーベース)	4
食料自給率③ 令和4年度食料自給率・食料国産率(生産額ベース)	5
食料自給率④ 令和4年度食料自給率・食料国産率における各品目の寄与度	6
食料自給率⑤ 食料自給率の長期的推移	8
食料自給率⑥ 食料自給率の目標	9
食料自給率⑦ 生産努力目標の達成状況	10
参考資料① 飼料自給率を反映しない「食料国産率」について	11
参考資料② 食料自給率等の長期データ	13
食料自給力指標① 食料自給力指標の考え方	14
食料自給力指標② 食料自給力指標の計算方法	15
食料自給力指標③ 令和4年度食料自給力指標	16
食料自給力指標④ 食料自給力指標の推移	17
参考資料① 食料自給力指標の関連指標①	18
参考資料② 食料自給力指標の関連指標②	19
参考資料③ 食料自給力指標の推移(データ)	20
都道府県別食料自給率① 都道府県別食料自給率の計算方法	21
都道府県別食料自給率② 令和3年度都道府県別食料自給率	22
都道府県別食料自給率③ 令和3年度都道府県別食料国産率	23
都道府県別食料自給率④ 都道府県別食料自給率の推移	24
諸外国の食料自給率 我が国と諸外国の食料自給率	25
我が国の食料供給の概観 供給カロリーの国別構成(試算):令和4年度	26
我が国の食料供給の概観 食料消費額の国別構成(試算):令和4年度	28

令和4年度の食料自給率・食料自給力指標（結果概要）

食料自給率等

<カロリーベース>

$$\frac{1人1日当たり国産供給熱量(850kcal)}{1人1日当たり供給熱量(2,260kcal)} = 38\%$$

<生産額ベース>

$$\frac{食料の国内生産額(10.3兆円)}{食料の国内消費仕向額(17.7兆円)} = 58\%$$

<飼料自給率>

$$\frac{純国内産飼料供給量(6,561TDN千トン)}{飼料供給量(25,003TDN千トン)} = 26\%$$

<カロリーベースの食料国産率>

$$\frac{1人1日当たり国産供給熱量(1,055kcal)}{1人1日当たり供給熱量(2,260kcal)} = 47\%$$

<生産額ベースの食料国産率>

$$\frac{食料の国内生産額(11.5兆円)}{食料の国内消費仕向額(17.7兆円)} = 65\%$$

食料自給力指標

米・小麦中心の作付け: 1,720kcal

いも類中心の作付け: 2,368kcal

※推定エネルギー必要量(そのときの体重を保つ(増加も減少もしない)ために適当なエネルギー): 2,168kcal

【自給率の基本的考え方】

- 食料自給率とは、国内の食料全体の供給に対する食料の国内生産の割合を示す指標です。分子を国内生産、分母を国内消費仕向として計算されます。
- 単純に重量で計算することができる品目別自給率と、食料全体について共通の「ものさし」で単位を揃えることにより計算する総合食料自給率の2種類があります。このうち、総合食料自給率は、熱量で換算するカロリーベースと金額で換算する生産額ベースがあります。

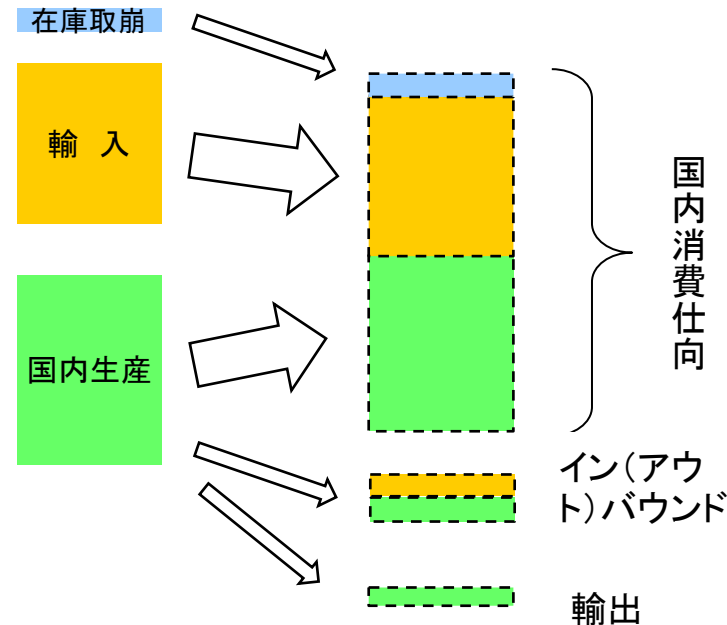
【食料自給率の計算式】

国内の食料全体の供給に対する国内生産の割合
⇒ 食料自給率

$$\begin{aligned}\text{食料自給率} &= \frac{\text{国内生産}}{\text{国内消費仕向}} \\ &= \frac{\text{国内生産}}{\text{国内生産} + \text{輸入} - \text{輸出} \pm \text{在庫増減} \pm \text{イン(アウト)バウンド}}\end{aligned}$$

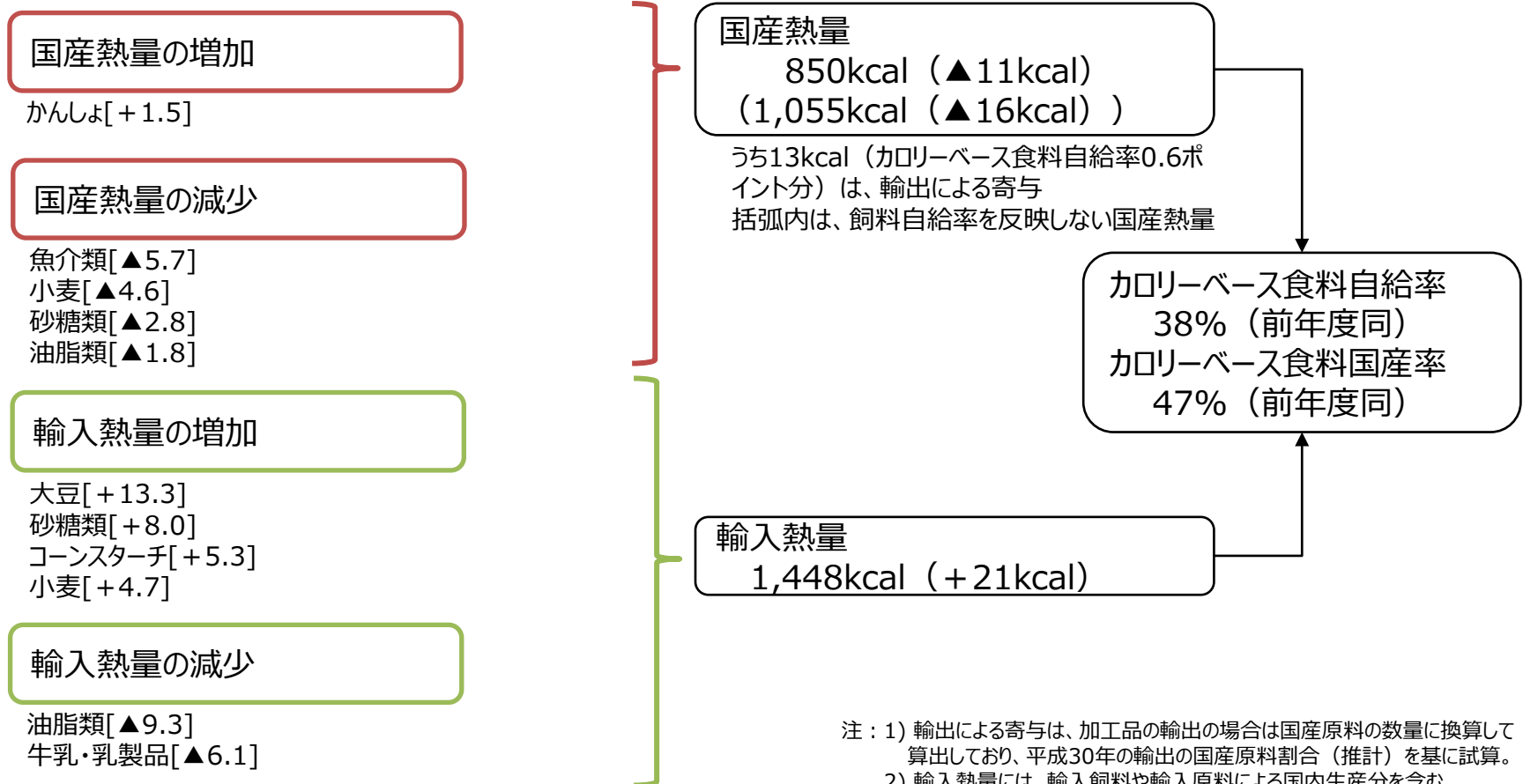
※ 平成30年度確定値より、イン(アウト)バウンドによる食料消費増加分を補正

【国内消費仕向(分母)の考え方】



- カロリーベースの食料自給率については、前年豊作だった小麦が平年並みの単収へ減少（作付面積は増加）、魚介類の生産量が減少した一方で、原料の多くを輸入に頼る油脂類の消費減少等により、前年度と同じ38%となりました。カロリーベースの食料国産率（飼料自給率を反映しない）についても、前年度と同じ47%となりました。
- なお、飼料自給率も前年度と同じ26%となりました。

(単位：kcal)



注：1) 輸出による寄与は、加工品の輸出の場合は国産原料の数量に換算して算出しており、平成30年の輸出の国産原料割合（推計）を基に試算。
2) 輸入熱量には、輸入飼料や輸入原料による国内生産分を含む。
3) 総供給熱量（2,260kcal (▲5kcal)）は、国産熱量と輸入熱量の合計から輸出や在庫の増減分を差し引くため、国産熱量と輸入熱量の合計とは一致しない。

- 生産額ベースの食料自給率については、輸入された食料の量は前年度と同程度でしたが、国際的な穀物価格や飼料・肥料・燃油等の生産資材価格の上昇、物流費の高騰、円安等を背景に、総じて輸入価格が上昇し、輸入額が増加したことにより、前年度より5ポイント低い58%となりました。また、生産額ベース食料国産率（飼料自給率を反映しない）についても、前年度より4ポイント低い65%となりました。

国内生産額の増加

（単位：億円）

米[+1,064]
野菜[+977]、果実[+430]
油脂類[+302]（原料輸入額控除前[+1,774]）
鶏肉[+249]（飼料輸入額控除前[+842]）
砂糖類[+225]（原料輸入額控除前[+353]）

国内生産額の減少

牛乳・乳製品[▲326]（飼料輸入額控除前[+73]）
牛肉[▲296]（飼料輸入額控除前[+351]）
豚肉[▲263]（飼料輸入額控除前[+523]）
ばれいしょ[▲220]

輸入飼料・原料額の増加

飼料[+3,245]
油脂原料[+1,472]
コーンスターチ原料[+438]

輸入額の増加

魚介類[+4,771]
牛肉[+830]、鶏肉[+934]、豚肉[+556]
牛乳・乳製品[+711]
小麦[+749]
野菜[+661]、果実[+649]
油脂類[+637]
ばれいしょ[+568]
大豆[+355]

（参考）生産額ベースの食料自給率の計算式

$$\text{生産額ベースの食料自給率} = \frac{\text{食料の国内生産額}}{\text{食料の国内消費仕向額}} \div \frac{\text{国内生産量（食用）} \times \text{国産単価} - \text{飼料輸入額} - \text{原料輸入額}}{\text{国内生産量（食用）} \times \text{国産単価} + \text{輸入量（食用）} \times \text{輸入単価}}$$

食料の国内生産額

10兆2,728億円（+2,443億円）
（11兆4,517億円（+5,688億円））

うち3,818億円（生産額ベース食料自給率2ポイント分）は、輸出による寄与
括弧内は、飼料自給率を反映しない国内生産額

生産額ベース食料自給率
58%（▲5ポイント）
生産額ベース食料国産率
65%（▲4ポイント）

食料の輸入額

7兆9,596億円（+1兆7,635億円）

- 注：1）生産額ベース食料自給率の国内生産額や輸出入額は、非食用の農林水産物を含まず、加工品を原料の数量・価格に換算して計上するなど、農業総産出額における生産額や貿易統計における輸出入額と定義が異なるため、それらの金額とは一致しない。
2）輸出による寄与は、加工品の輸出の場合は国産原料の数量・価格に換算して算出しており、平成30年の輸出の国産原料割合（推計）を基に試算。
3）食料の国内消費仕向額（17兆7,300億円（+1兆9,147億円））は、食料の国内生産額と食料の輸入額の合計から輸出や在庫の増減分を差し引くため、食料の国内生産額と食料の輸入額の合計とは一致しない。

○カロリーベース

品目	国産熱量		総供給熱量		寄与度	備考
		対前年度差		対前年度差		
米	474kcal	+0kcal	476kcal	▲5kcal	+0.1ポイント	輸入量(調製品含む)▲5.2%
小麦	47kcal	▲5kcal	299kcal	+0kcal	▲0.2ポイント	作付面積+3.3%、単収▲12.4%
いも類	26kcal	+2kcal	41kcal	+4kcal	+0.0ポイント	
でん粉	12kcal	▲0kcal	154kcal	+5kcal	▲0.1ポイント	コーンスターチの国内消費仕向量+2.8%
大豆	18kcal	▲0kcal	73kcal	+0kcal	▲0.0ポイント	
野菜	50kcal	+0kcal	66kcal	+0kcal	▲0.0ポイント	
果実	20kcal	+1kcal	66kcal	▲1kcal	+0.0ポイント	
畜産物	68kcal (259kcal)	+0kcal (▲3kcal)	408kcal	▲2kcal	+0.1ポイント ▲0.1ポイント	粗飼料自給率+2ポイント 鶏肉の輸入量+1.1% 乳製品の輸入量▲6.4%
魚介類	39kcal	▲6kcal	78kcal	▲3kcal	▲0.2ポイント	さば類の生産量▲28.5% かつおの生産量▲28.6%
砂糖類	63kcal	▲3kcal	185kcal	+4kcal	▲0.2ポイント	てん菜の作付面積▲4.0%、同単収▲9.1%
油脂類	9kcal (23kcal)	▲2kcal (▲4kcal)	327kcal	▲12kcal	+0.1ポイント (+0.1ポイント)	国内消費仕向量▲3.4%
その他	25kcal	+1kcal	86kcal	+3kcal	+0.0ポイント	
合計	850kcal (1,055kcal)	▲11kcal (▲16kcal)	2,260kcal	▲5kcal	▲0.4ポイント (▲0.6ポイント)	

○生産額ベース

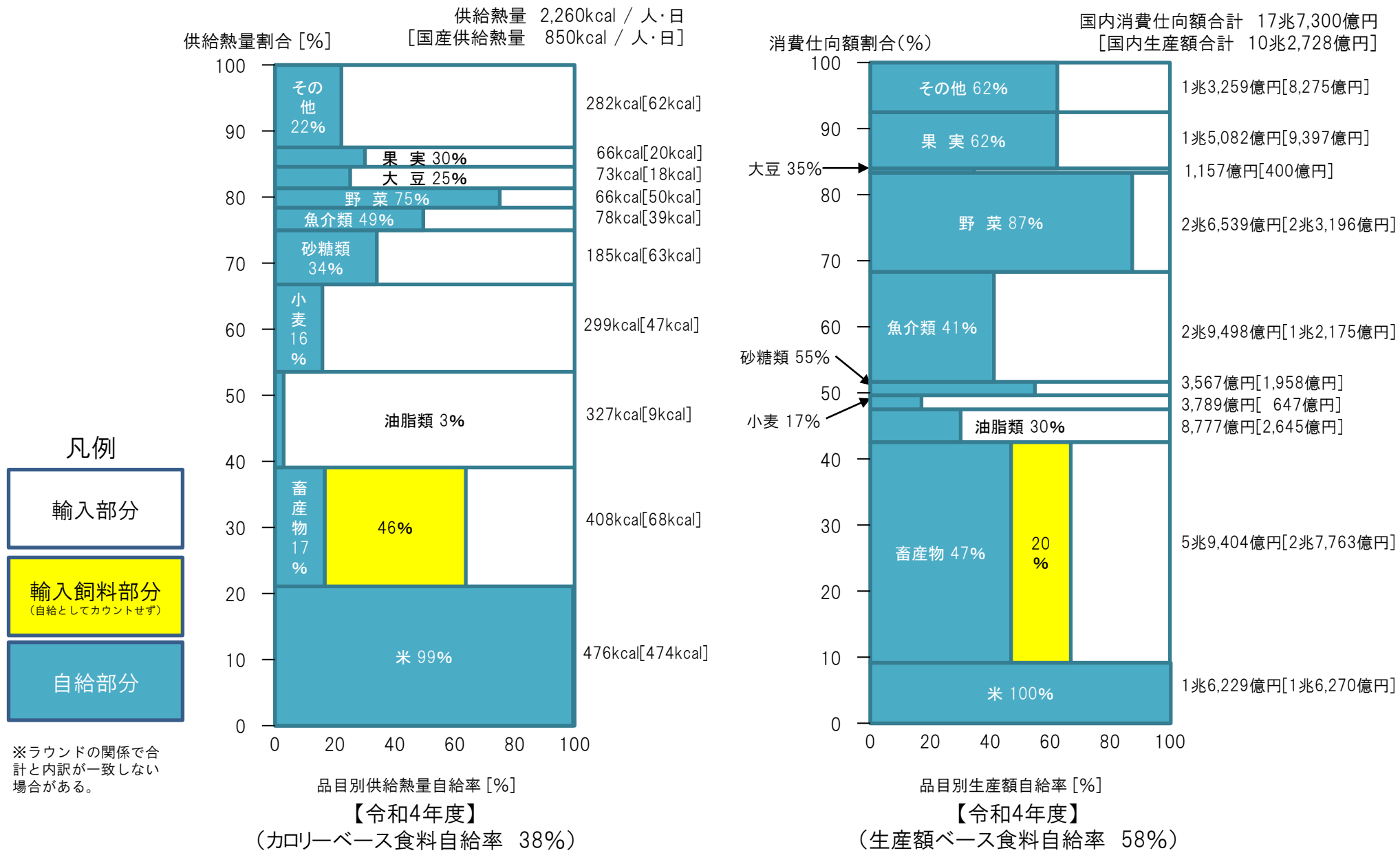
品目	食料の国内生産額		食料の国内消費仕向額		寄与度	備考
		対前年度差		対前年度差		
米	1兆6,270億円	+1,064億円	1兆6,229億円	+944億円	+0.3ポイント	国産単価+7.5%
小麦	647億円	+85億円	3,789億円	+830億円	▲0.3ポイント	輸入単価+29.0%
いも類	1,817億円	▲147億円	3,307億円	+426億円	▲0.2ポイント	
でん粉	309億円	+50億円	1,802億円	+519億円	▲0.2ポイント	
大豆	400億円	▲19億円	1,157億円	+166億円	▲0.1ポイント	
野菜	2兆3,196億円	+977億円	2兆6,539億円	+1,625億円	+0.0ポイント	
果実	9,397億円	+430億円	1兆5,082億円	+1,059億円	▲0.1ポイント	
畜産物	2兆7,763億円 (3兆9,552億円)	▲607億円 (+2,638億円)	5兆9,404億円	+6,022億円	▲2.6ポイント (▲0.8ポイント)	飼料輸入額+38.0% 鶏肉の輸入単価+47.0% 牛肉の輸入単価+15.8%
魚介類	1兆2,175億円	+151億円	2兆9,498億円	+4,370億円	▲1.5ポイント	輸入単価+24.0%
砂糖類	1,958億円	+225億円	3,567億円	+421億円	▲0.0ポイント	
油脂類	2,645億円	+302億円	8,777億円	+2,320億円	▲0.7ポイント	原料輸入額+53.0%
その他	6,148億円	▲68億円	8,150億円	+443億円	▲0.2ポイント	
合計	10兆2,728億円 (11兆4,517億円)	+2,443億円 (+5,688億円)	17兆7,300億円	+1兆9,147億円	▲5.5ポイント (▲4.2ポイント)	

※1 フワントの関係で、合計と内訳が一致しない場合がある。

※2 括弧内は飼料自給率を反映しない食料国産率の数値である。

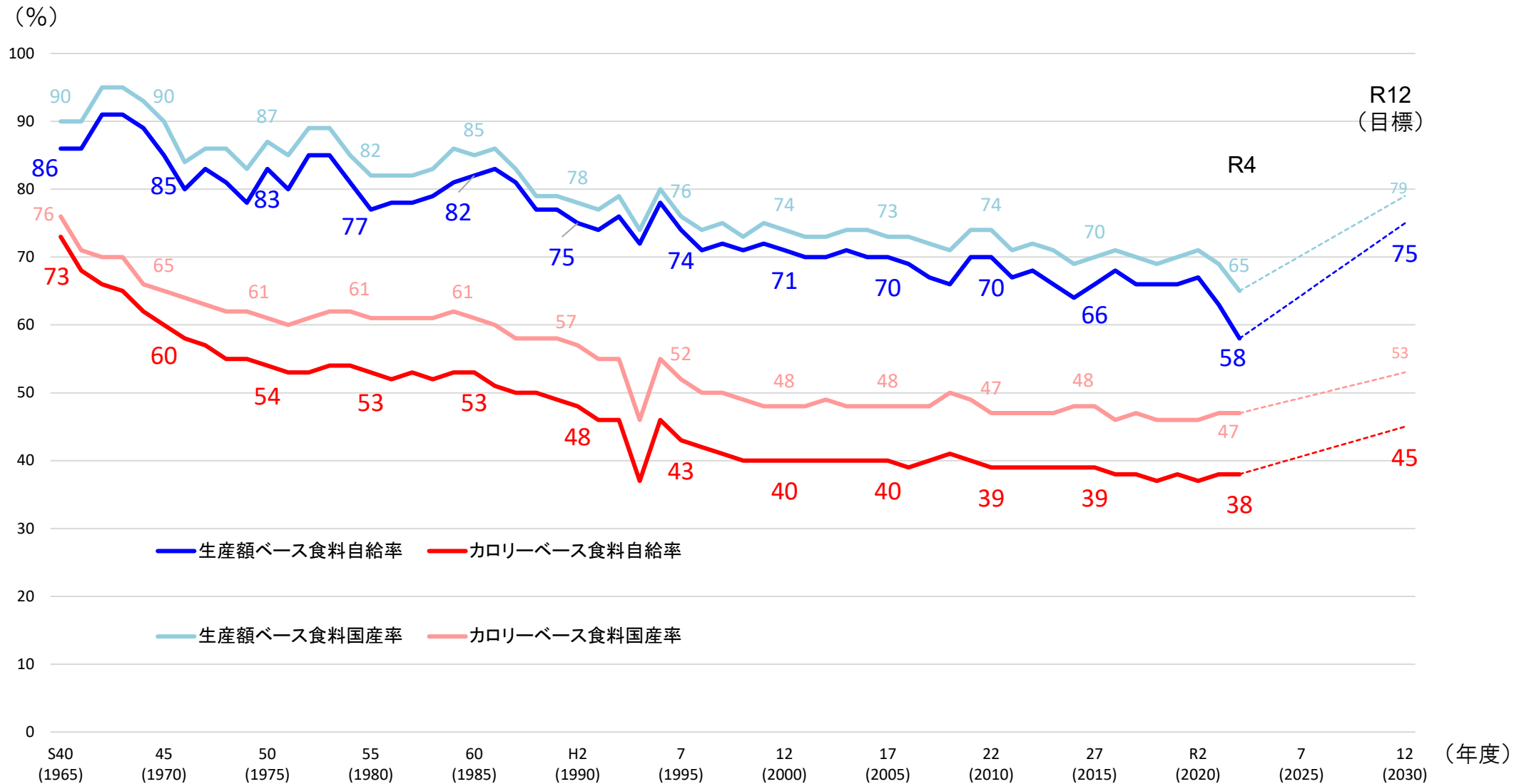
食料自給率計算では飼料自給率を反映している畜産物及び油脂類の一部(牛脂、その他の動物油脂)について、飼料自給率を反映していない。

カロリーベースと生産額ベースの食料自給率（令和4年度）



※ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

○ 食料自給率は、米の消費が減少する一方で、畜産物や油脂類の消費が増大する等の食生活の変化により、長期的には低下傾向が続いてきましたが、2000年代に入ってから概ね横ばい傾向で推移しています。



- 食料自給率については、食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）第15条第2項に基づき、食料・農業・農村基本計画において、その目標を定めることとされています。
- また、同法第15条第3項では、目標を定めるに当たっては、「その向上を図ることを旨とし、国内の農業生産及び食料消費に関する指針として、農業者その他の関係者が取り組むべき課題を明らかに」することとされています。
- 令和2年3月に策定された基本計画においては、令和12年度の食料自給率の目標がカロリーベースで45%、生産額ベースで75%と設定されています。
- 併せて、令和12年度の飼料自給率の目標が34%、食料国産率の目標がカロリーベースで53%、生産額ベースで79%と設定されています。

	平成30年度(基準年度)		令和12年度(目標年度)
供給熱量ベースの 総合食料自給率	37%		45%
生産額ベースの 総合食料自給率	66%		75%
飼料自給率	25%		34%
供給熱量ベースの 食料国産率	46%		53%
生産額ベースの 食料国産率	69%		79%

- 食料自給率の目標は、品目毎の「消費の見通し」と「生産努力目標」を積み上げて設定されています。
- 生産努力目標の達成のためには、食料・農業・農村基本計画で示されている品目毎の克服すべき課題を解決していく必要があります。

【生産努力目標と生産量の実績値】

	H30 基準年度	R1	R2	R3	R4	R12 目標
カロリーベース 食料自給率	37%	38%	37%	38%	38%	45%
生産額ベース 食料自給率	66%	66%	67%	63%	58%	75%
飼料自給率	25%	25%	25%	26%	26%	34%
カロリーベース 食料国産率	46%	46%	46%	47%	47%	53%
生産額ベース 食料国産率	69%	70%	71%	69%	65%	79%

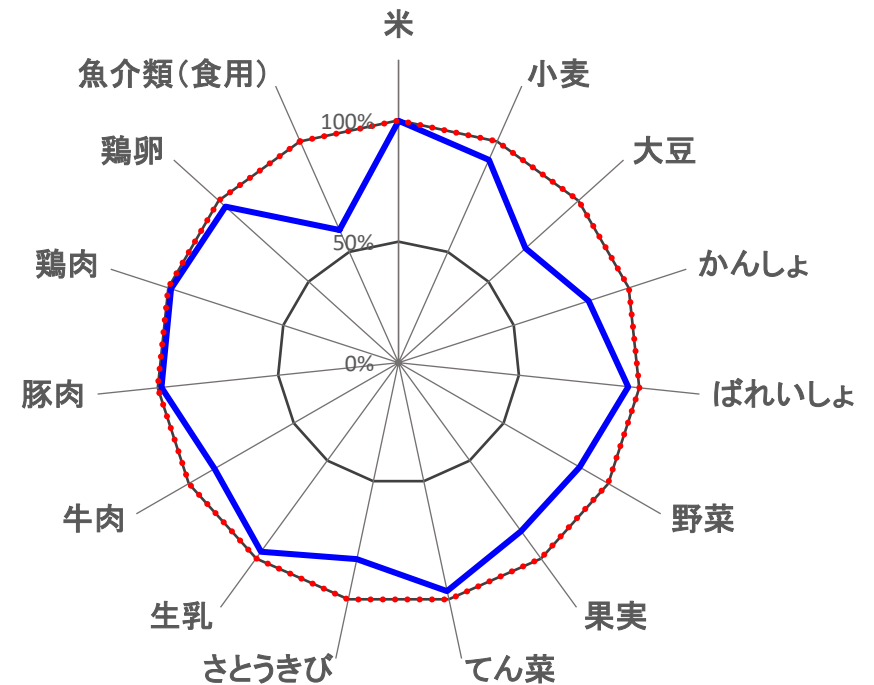
	H30 基準年度	R1	R2	R3	R4	R12 目標
米	775	774	773	752	722	723
小麦	76	104	95	110	99	108
大豆	21	22	22	25	24	34
かんしょ	80	75	69	67	71	86
ばれいしょ	226	240	221	218	228	239
野菜	1,131	1,168	1,151	1,135	1,124	1,302
果実	283	270	267	259	265	308
てん菜	361	399	391	406	355	368
さとうきび	120	117	134	136	127	153
生乳	728	736	743	765	753	780
牛肉	48	47	48	48	50	57
豚肉	128	129	131	132	129	131
鶏肉	160	163	165	168	168	170
鶏卵	263	265	260	259	254	264
魚介類(食用)	335	312	304	308	284	474

単位: 万トン

(注1) 米は米粉用米、飼料用米を除く

(注2) 基準年のH30の数値は、令和2年基本計画策定時の最新値である概算値。

【生産努力目標の達成状況】



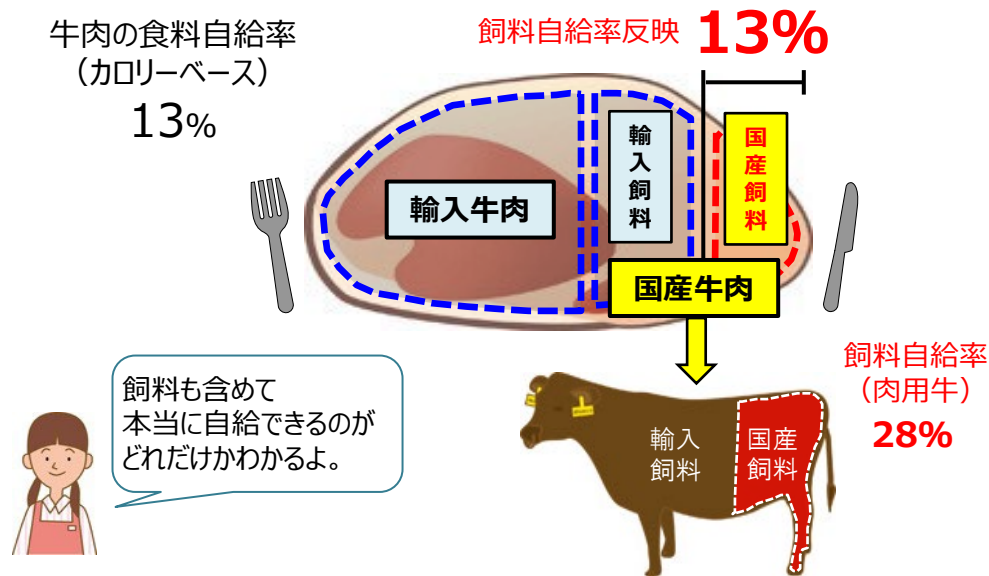
青実線：R4 年度実績値/R12年度目標値

令和12年度目標値を上回ってれば赤（100％）の外側、下回ってれば内側

（注）米は米粉用米、飼料用米を除く

- 総合食料自給率の目標では、「国内生産」を厳密にとらえるため、輸入飼料による畜産物の生産分を除いて計算しており、これは食料安全保障を図る上で基礎的な目標です。
- 令和2年食料・農業・農村基本計画においては、国内畜産業の生産基盤に着目し、その強化を図っていくことを評価するため、飼料自給率の目標とあわせて「食料国産率」の目標が設定されました。

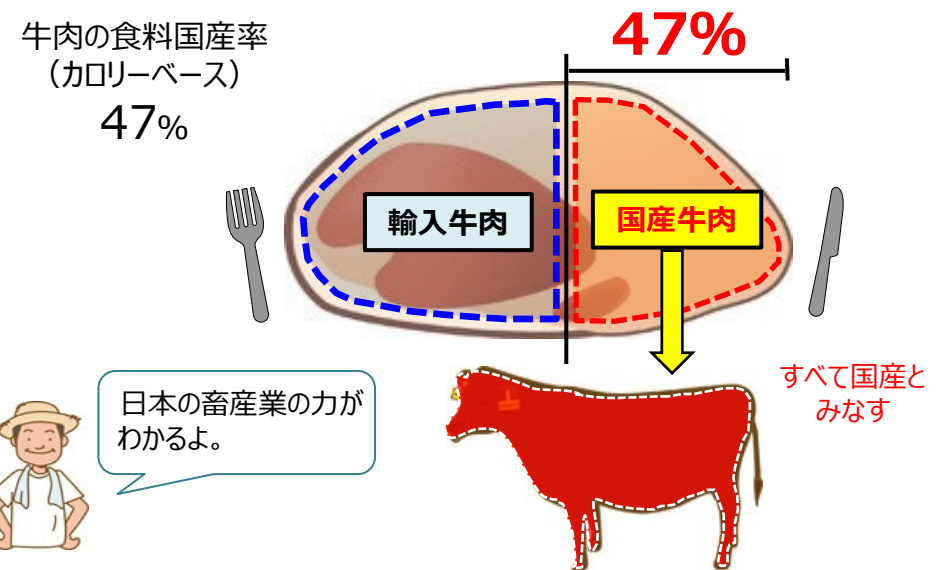
食料自給率（飼料自給率を反映）



- ・国産飼料のみで生産可能な部分を厳密に評価できる。
- ・国産飼料の生産努力が反映される。

➤ 我が国の食料安全保障の状況进行评估

食料国産率（飼料自給率を反映しない）



- ・需要に応じて増頭・増産を図る畜産農家の努力が反映される。
- ・日ごろ、国産畜産物を購入する消費者の実感と合う。

➤ 飼料が国産か輸入かにかかわらず、畜産業の活動を反映し、国内生産の状況进行评估

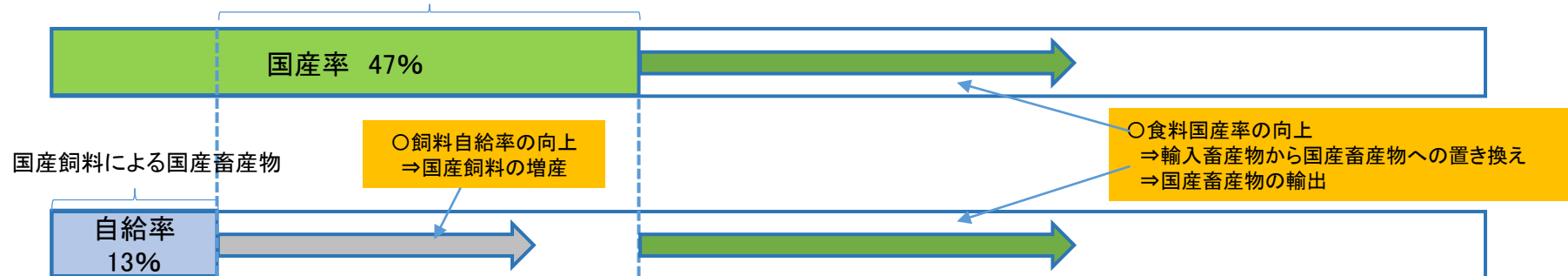
食料自給率の向上と食料国産率の向上の関係について

- 食料自給率と食料国産率の差は、輸入飼料を用いて生産された国内畜産物を意味しています。
- すなわち、
 - ① 食料国産率は、輸入畜産物から国産畜産物への置き換えや国産畜産物の輸出によって、また、
 - ② 食料自給率と食料国産率の差の部分は、飼料自給率への向上によって、それぞれ向上することとなります。
- このため、食料国産率と飼料自給率の双方の向上を通じて、食料自給率の向上を図る必要があります。

	カロリーベース 食料自給率	カロリーベース 食料国産率	差
総合	38%	47%	9ポイント
畜産物	17%	63%	46ポイント
牛肉	13%	47%	34ポイント
豚肉	6%	49%	43ポイント
鶏肉	9%	64%	55ポイント
鶏卵	13%	97%	84ポイント
牛乳乳製品	27%	62%	35ポイント

食料自給率の向上のイメージ(例:牛肉のカロリーベース)

輸入飼料による国産畜産物



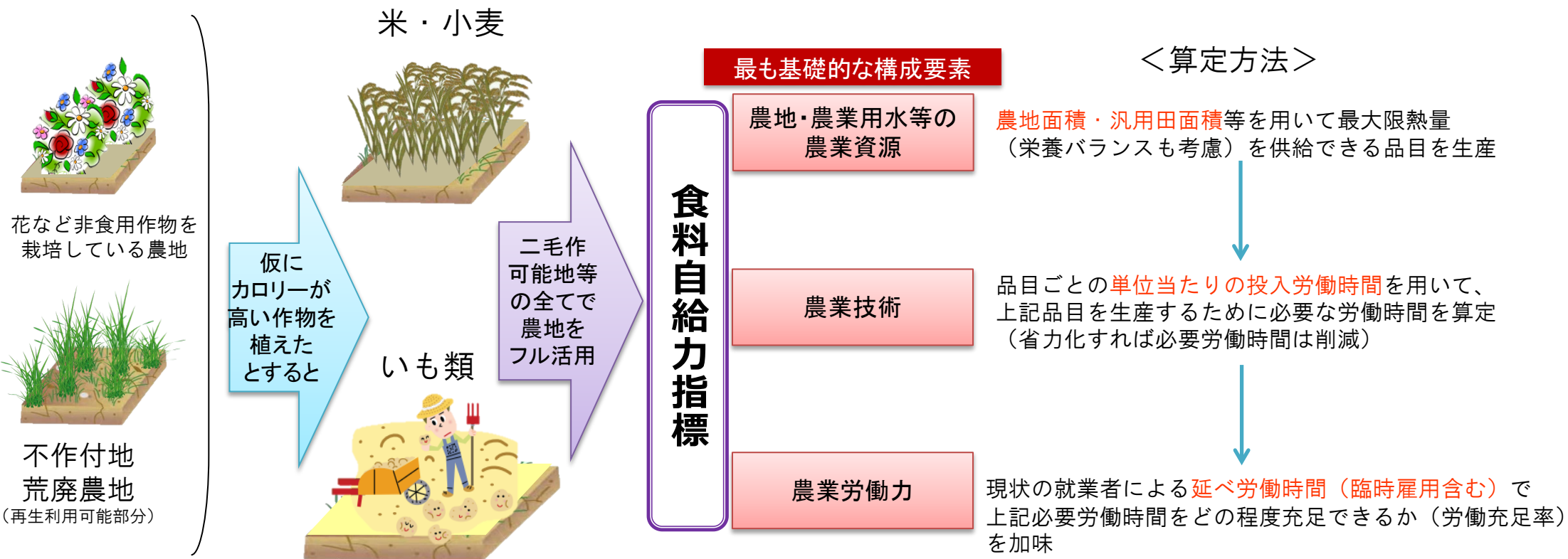
「食料国産率」と「飼料自給率」の双方の向上を通じて、「食料自給率」の向上を図る

年度	S40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
カロリーベース 食料自給率	73%	68%	66%	65%	62%	60%	58%	57%	55%	55%	54%	53%	53%	54%	54%	53%	52%	53%	52%	53%
生産額ベース 食料自給率	86%	86%	91%	91%	89%	85%	80%	83%	81%	78%	83%	80%	85%	85%	81%	77%	78%	78%	79%	81%
カロリーベース 食料国産率	76%	71%	70%	70%	66%	65%	64%	63%	62%	62%	61%	60%	61%	62%	62%	61%	61%	61%	61%	62%
生産額ベース 食料国産率	90%	90%	95%	95%	93%	90%	84%	86%	86%	83%	87%	85%	89%	89%	85%	82%	82%	82%	83%	86%

年度	60	61	62	63	H1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
カロリーベース 食料自給率	53%	51%	50%	50%	49%	48%	46%	46%	37%	46%	43%	42%	41%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
生産額ベース 食料自給率	82%	83%	81%	77%	77%	75%	74%	76%	72%	78%	74%	71%	72%	71%	72%	71%	70%	70%	71%
カロリーベース 食料国産率	61%	60%	58%	58%	58%	57%	55%	55%	46%	55%	52%	50%	50%	49%	48%	48%	48%	49%	48%
生産額ベース 食料国産率	85%	86%	83%	79%	79%	78%	77%	79%	74%	80%	76%	74%	75%	73%	75%	74%	73%	73%	74%

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4 (概算)
カロリーベース 食料自給率	40%	40%	39%	40%	41%	40%	39%	39%	39%	39%	39%	39%	38%	38%	37%	38%	37%	38%	38%
生産額ベース 食料自給率	70%	70%	69%	67%	66%	70%	70%	67%	68%	66%	64%	66%	68%	66%	66%	66%	67%	63%	58%
カロリーベース 食料国産率	48%	48%	48%	48%	50%	49%	47%	47%	47%	47%	48%	48%	46%	47%	46%	46%	46%	47%	47%
生産額ベース 食料国産率	74%	73%	73%	72%	71%	74%	74%	71%	72%	71%	69%	70%	71%	70%	69%	70%	71%	69%	65%

- 食料自給率は平時の多様な食生活に対応した国内生産の状況を示す指標ですが、食生活の変化に影響を受けるほか、花など非食用作物が栽培されている農地や不作付地・荒廃農地（再生利用可能）が有する潜在生産能力が反映されないなど一定の限界があります。
- そのため、平素から「国内生産のみでどれだけの食料（カロリー）を最大限生産することが可能か」（食料の潜在生産能力）を把握するため、国内生産基盤として最も基礎的な構成要素である、農地等の農業資源、農業技術、農業労働力に着目して、食料自給力指標を試算・公表しています（※）。
- 試算に当たり、令和2年からは、農地等の資源に加えて、省力化等の農業技術や農業労働力も考慮することとしました。（併せて、将来に向けた農地や労働力の確保、単収の向上が、食料自給力の向上にどのように寄与するか、定量的に評価）



※ 生産転換に要する期間は考慮されていないほか、肥料、農薬、化石燃料、種子等は国内生産に十分な量が確保されていると仮定。

- 食料自給力指標については、各品目の生産量に単位熱量を乗じて合計した熱量を人口と1年間の日数で割って算出。
- 労働充足率は、現実投入されている延べ労働時間を各品目の生産に必要な労働時間の合計時間で割って算出。
- 耕種作物の生産量は、パターン毎に熱量効率を最大化するよう一定の制約条件下で品目別に作付面積を決定し、作付面積に単収を乗じて計算。
- 畜産物の生産量は、耕種作物の副産物等の生産量から飼養可能頭羽数を求め、生産能力を乗じて計算。
- 林水産物の生産量のうち、魚介類は漁業漁獲量の実績値に、TAC枠内未漁獲量等を加えて計算し、海藻類・きのこ類は実績値を使用。

基本的な計算式

$$\text{食料自給力指標} = \frac{\sum_i (\text{品目}i\text{の生産量} \times \text{品目}i\text{の単位重量当たり熱量})}{\text{人口} \times 1\text{年間の日数}}$$

$$\text{労働充足率} = \frac{\text{現有労働力の延べ労働時間}}{\sum_i (\text{品目}i\text{の単位面積（1頭羽）当たり労働時間} \times \text{品目}i\text{の作付面積（頭羽数）})}$$

注：現有労働力の延べ労働時間は、農林業センサスによる臨時雇いも含めた値。センサス非実施年は農業構造動態調査を用いて補完推計。

品目毎の生産量・必要労働時間の計算方法

耕種作物

$$\text{生産量} = \text{作付面積} \times \text{単収}$$

作付面積：栄養バランスを一定程度考慮しつつ、熱量効率を最大化するよう一定の制約条件（気候条件、地理条件等）下で品目別に設定

単収：平年単収または平均単収（7中5平均）を使用
（汎用田及び畑地かんがい整備済み畑においては増収効果を織り込んで計算）

$$\text{必要労働時間} = \text{単位面積当たり労働時間} \times \text{作付面積}$$

畜産物

$$\text{飼養可能頭羽数} = \sum_i (\text{耕種作物の副産物等}i\text{（稲わら、ふすま等）の生産量} \times \text{副産物等}i\text{のTDN換算係数}) \div 1\text{頭羽当たり飼料需要量}$$

$$\text{生産量} = \text{飼養可能頭羽数} \times 1\text{頭羽当たり生産能力（経産牛1頭当たり年間搾乳量、と畜1頭当たり枝肉生産量等）}$$

$$\text{必要労働時間} = \text{飼養可能頭羽数} \times 1\text{頭羽当たり労働時間}$$

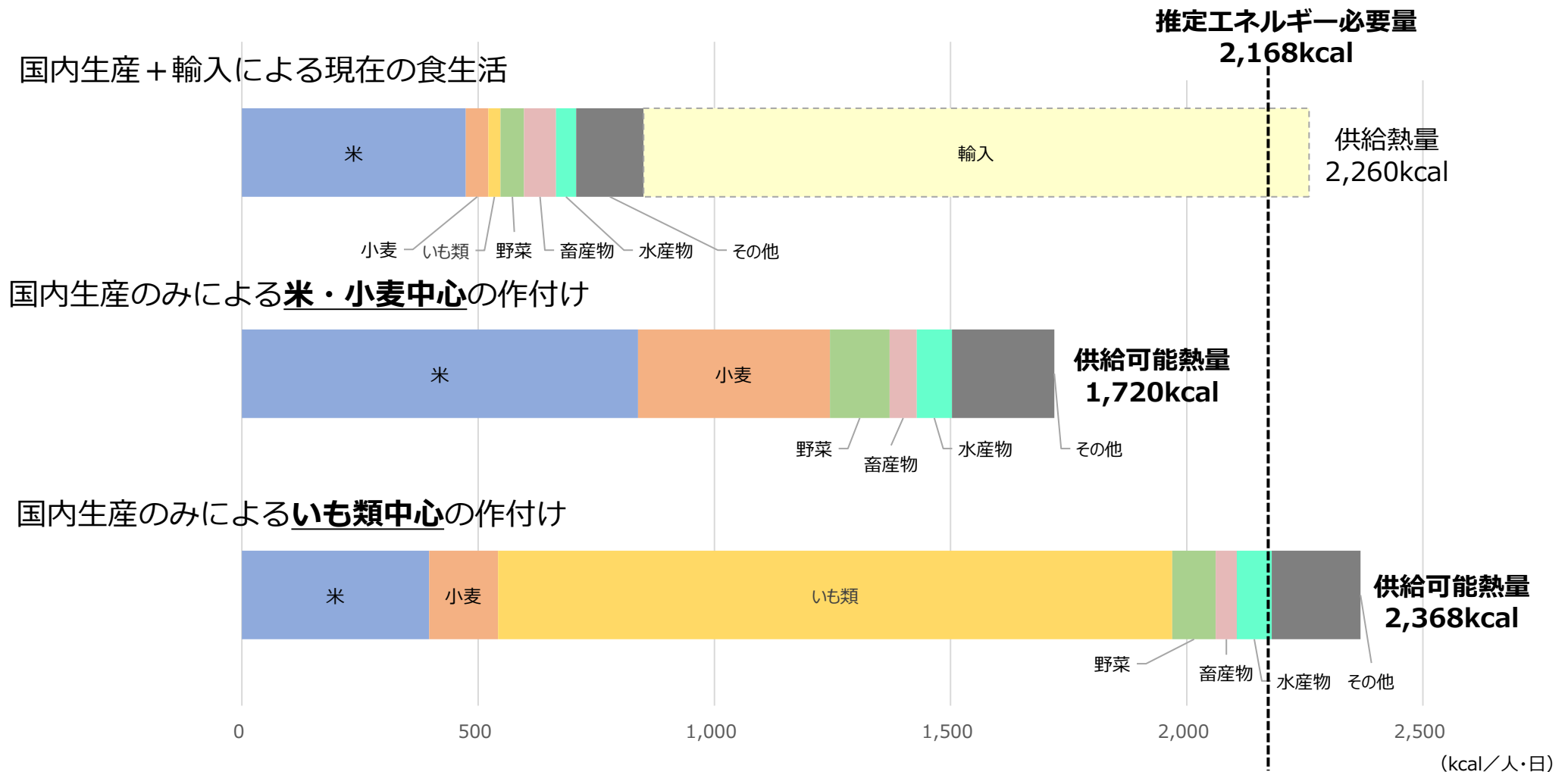
注：肉類の生産量の計算においてはと殺比率を考慮。

林水産物

$$\begin{aligned} \text{魚介類の生産量} &= \text{漁業漁獲量（実績値）} + \text{TAC枠内未漁獲量} + \text{無給餌養殖量（実績値）} + \text{国産魚のあらかずで生産可能な給餌養殖量（試算値）} \\ \text{海藻類・きのこ類の生産量} &= \text{生産量（実績値）} \end{aligned}$$

注：林水産物については、労働時間等の関連データがないことや林産物は実績値をそのまま用いていることから、労働充足率を100%として試算。

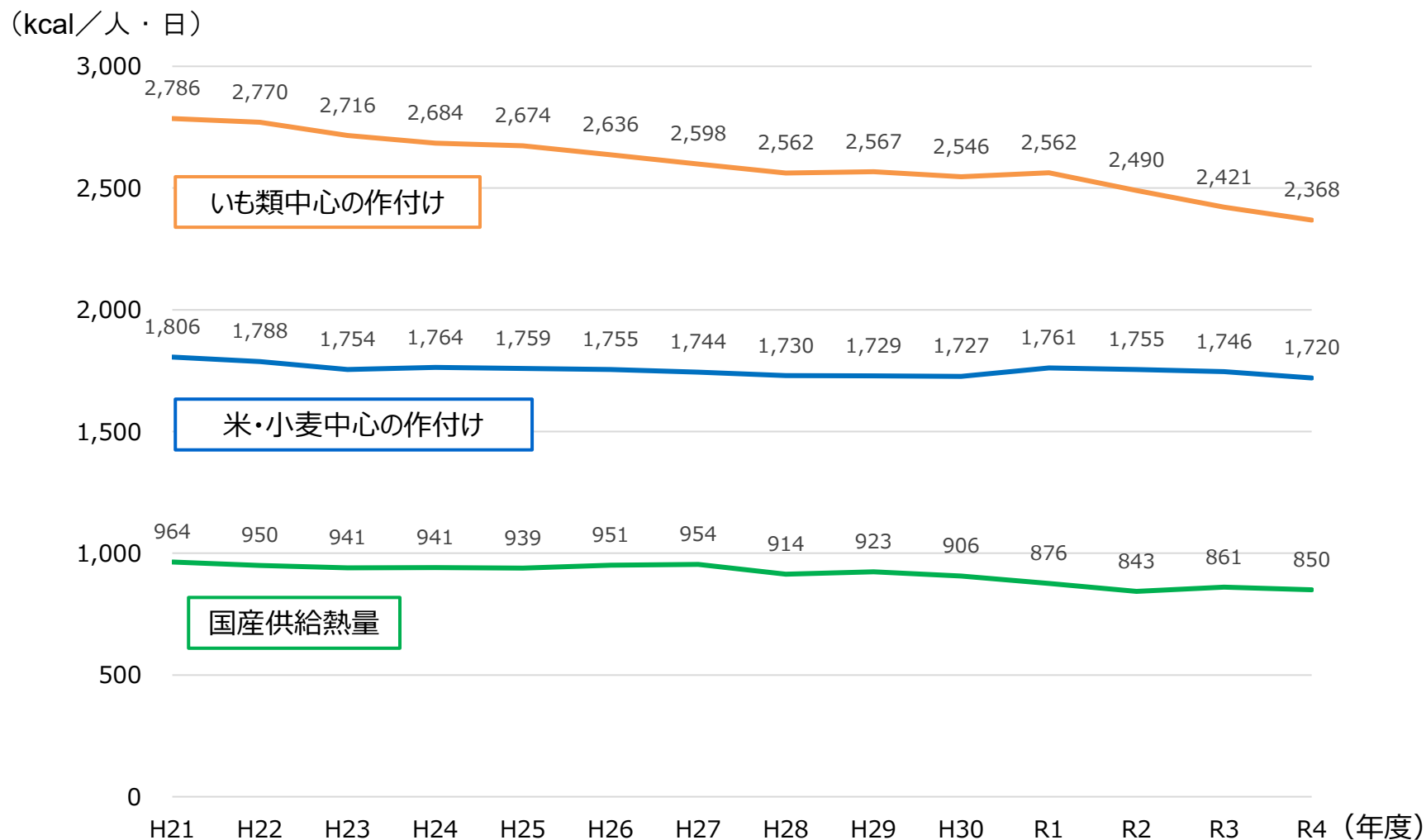
- 令和4年度の食料自給力指標は、米・小麦中心の作付けについては、農地面積の減少、魚介類の生産量減少、小麦の単収減少等により、前年度を26kcal/人・日下回る、1,720kcal/人・日となりました。
- いも類中心の作付けについては、労働力（延べ労働時間）の減少、農地面積の減少、魚介類の生産量減少等により、前年度を53kcal/人・日下回る、2,368kcal/人・日となりました。



注1: 推定エネルギー必要量とは、1人・1日当たりの「そのときの体重を保つ(増加も減少もしない)ために適当なエネルギー」の推定値をいう。

注2: 農地面積は432.5万ha(令和4年耕地面積統計)に加えて、再生利用可能な荒廃農地面積9.1万ha(令和3年)の活用を含む。

- 食料自給力指標は、近年、米・小麦中心の作付けでは小麦等の単収増加により横ばい傾向となっている一方、より労働力を要するいも類中心の作付けでは、労働力（延べ労働時間）の減少により、減少傾向となっています。
- 食料自給力の維持向上のため、農地の確保、単収向上に加え、労働力の確保や省力化等の技術改善が重要です。



				令和3年度	令和4年度
農産物	農地・農業用水等の農業資源	農地面積		434.9万ha	432.5万ha
			うち汎用田面積	110万ha(令和2年)	111万ha(令和3年)
			うち畑地かんがい整備済み面積	49万ha(令和2年)	50万ha(令和3年)
		再生利用可能な荒廃農地面積		9.0万ha(令和2年)	9.1万ha(令和3年)
		機能診断済み基幹的水利施設の割合		100%(令和2年)	100%(令和3年)
		耕地利用率		91%(令和2年)	91%(令和3年)
		担い手への農地集積率		59%	60%
	農業就業者	農業就業者数(基幹的農業従事者+雇用者(常雇い)+役員等(年間150日以上農業に従事))		153万人	146万人
		うち49歳以下		26万人	25万人
		延べ労働時間(試算値)		31.7億時間	30.5億時間
	農業技術	主要品目の10a当たり収量及び1頭羽当たり生産能力	米(米粉用米・飼料用米を除く)	539kg	536kg
			小麦	499kg	437kg
			大豆	169kg	160kg
			かんしょ	2,070kg	2,200kg
			ばれいしょ	3,070kg(令和2年)	3,070kg(令和3年)
			野菜	2,952kg(令和2年)	2,941kg(令和3年)
			果実	1,246kg	1,295kg
			てん菜	7,040kg	6,400kg
			さとうきび	5,810kg	5,480kg
			生乳	8,938kg	8,871kg
			牛肉	453kg	453kg
			豚肉	78kg	78kg
			鶏肉	1.9kg	1.9kg
			鶏卵	18kg	19kg
			牧草	3,340kg	3,520kg

注1：延べ労働時間(試算値)は、農林業センサスにおける延べ労働日数及び農業構造動態調査を用いて試算した値。

注2：10a当たり収量については実績値を記載。

注3：1頭羽当たり生産能力について、生乳は経産牛1頭当たり年間生産量、牛肉、豚肉、鶏肉はと畜1頭羽当たり枝肉生産量、鶏卵は成鶏めす1羽当たり年間生産量の値を記載。

				令和3年度	令和4年度
農産物	農業技術	主要品目の 単位当たり 投入労働時間	米	23時間／10a(令和2年)	22時間／10a(令和3年)
			小麦	3.4時間／10a	3.4時間／10a
			大豆	6.4時間／10a(令和2年)	6.1時間／10a(令和3年)
			かんしょ	96時間／10a(令和2年)	97時間／10a(令和3年)
			ばれいしょ	11時間／10a(令和2年)	12時間／10a(令和3年)
			野菜	161時間／10a(令和2年)	162時間／10a(令和3年)
			果実	236時間／10a(令和2年)	235時間／10a(令和3年)
			てん菜	11時間／10a(令和2年)	11時間／10a(令和3年)
			さとうきび	34時間／10a(令和2年)	38時間／10a(令和3年)
			生乳	134時間／頭(令和2年)	134時間／頭(令和3年)
			牛肉	39時間／頭(令和2年)	41時間／頭(令和3年)
			豚肉	2.9時間／頭(令和2年)	3.0時間／頭(令和3年)
			鶏肉	0.02時間／羽(令和2年)	0.02時間／羽(令和3年)
			鶏卵	0.2時間／羽(令和2年)	0.2時間／羽(令和3年)
			牧草	1.3時間／10a(令和2年)	1.2時間／10a(令和3年)
水産物	魚介類・海藻類の生産量	魚介類	377万トン	348万トン	
		海藻類	8.0万トン	7.6万トン	
	漁業就業者数			13万人	12万人

注：単位当たり投入労働時間については、食料自給力指標の作付体系に対応し、労働充足率の計算に使用する統計値及び試算値。

食料自給力指標の推移

○ 現在の農地で作付けする場合

	昭和40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	45年度	46年度	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度
米・小麦中心の作付け	2,056	2,053	2,049	2,063	2,072	2,071	2,074	2,023	2,026	2,010	1,976	1,958	1,960	1,963	1,972	1,988	1,990	1,996
いも類中心の作付け	3,141	3,125	3,069	3,038	3,003	2,977	2,935	2,870	2,870	2,864	2,836	2,814	2,834	2,852	2,834	2,830	2,844	2,846

	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
米・小麦中心の作付け	2,011	2,030	2,020	2,029	2,022	2,040	2,025	2,008	1,973	1,936	1,910	1,887	1,847	1,814	1,814	1,814	1,808	1,802
いも類中心の作付け	2,859	2,866	2,877	2,918	2,935	2,925	2,936	2,939	2,902	2,868	2,815	2,787	2,790	2,756	2,765	2,788	2,757	2,753

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
米・小麦中心の作付け	1,782	1,794	1,786	1,762	1,773	1,776	1,775	1,771	1,754	1,735	1,703	1,711	1,709	1,706	1,698	1,693	1,693	1,691
いも類中心の作付け	2,737	2,742	2,738	2,720	2,730	2,731	2,719	2,704	2,689	2,671	2,618	2,586	2,591	2,573	2,538	2,514	2,520	2,500

	令和元年度	2年度	3年度	4年度
米・小麦中心の作付け	1,726	1,718	1,708	1,682
いも類中心の作付け	2,516	2,442	2,375	2,332

○ 再生利用可能な荒廃農地においても作付けする場合

	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
米・小麦中心の作付け	1,806	1,788	1,754	1,764	1,759	1,755	1,744	1,730	1,729	1,727	1,761	1,755	1,746	1,720
いも類中心の作付け	2,786	2,770	2,716	2,684	2,674	2,636	2,598	2,562	2,567	2,546	2,562	2,490	2,421	2,368

試算上の耕地利用率の推移

○ 現在の農地で作付けする場合

	昭和40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	45年度	46年度	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度
米・小麦中心の作付け	114%	114%	113%	113%	112%	112%	112%	112%	112%	112%	112%	112%	112%	112%	113%	113%	113%	114%
いも類中心の作付け																		

	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
米・小麦中心の作付け	114%	114%	115%	116%	116%	117%	117%	118%	119%	119%	120%	120%	120%	120%	120%	120%	120%	120%
いも類中心の作付け																		

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
米・小麦中心の作付け	120%	120%	120%	120%	120%	120%	121%	121%	121%	121%	121%	121%	121%	121%	121%	121%	121%	121%
いも類中心の作付け																		

	令和元年度	2年度	3年度	4年度
米・小麦中心の作付け	121%	121%	121%	122%
いも類中心の作付け				

○ 再生利用可能な荒廃農地においても作付けする場合

	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
米・小麦中心の作付け	126%	126%	126%	126%	126%	126%	126%	125%	125%	125%	125%	125%	125%	125%
いも類中心の作付け														

都道府県別の食料自給率(食料国産率)については、国全体の総合食料自給率の基となるデータや都道府県ごとの統計データを基にして算出。

(1) カロリーベース

$$\text{カロリーベースの都道府県別食料自給率} = \frac{\text{1人・1日当たりの各都道府県産熱量}}{\text{1人・1日当たりの供給熱量}}$$

- ・ 分母となる1人・1日当たり供給熱量は、全国の1人・1日当たり供給熱量(令和3年度(確定値)は2,266kcal)と同じとしている。
- ・ 分子となる1人・1日当たり各都道府県産熱量は、品目ごとに全国の国産供給熱量を当該県の生産量等に応じて按分して、全品目を合計し、これを当該県の人口で割って算出している。
- ・ 畜産物については、畜種ごとの飼料自給率を乗じて食料自給率を算出。食料国産率においては飼料自給率を考慮しない。

(2) 生産額ベース

$$\text{生産額ベースの都道府県別食料自給率} = \frac{\text{各都道府県の食料生産額}}{\text{食料消費仕向額}}$$

- ・ 分母となる食料消費仕向額については、全国の食料消費仕向額(令和3年度(確定値)は15.8兆円)を当該県の人口に応じて按分して算出している。
- ・ 分子となる各都道府県の食料生産額は、品目ごとに全国の国内生産額を当該県の産出額等に応じて按分し、これらを合計して算出している。
- ・ 畜産物については、畜種ごとの輸入飼料額を控除して食料自給率を算出。食料国産率においては輸入飼料額を控除しない。

(単位：％)

(単位：％)

	カロリーベース			生産額ベース		
	令和2年度 (確定値)	令和3年度 (概算値)	前年度 との差	令和2年度 (確定値)	令和3年度 (概算値)	前年度 との差
全 国	37	38	＋ 1	67	63	▲ 4
北海道	217	223	＋ 6	217	220	＋ 3
青 森	125	120	▲ 5	250	240	▲ 10
岩 手	105	108	＋ 3	216	197	▲ 19
宮 城	72	72	0	92	82	▲ 10
秋 田	200	204	＋ 4	158	138	▲ 20
山 形	143	147	＋ 4	190	175	▲ 15
福 島	77	75	▲ 2	94	84	▲ 10
茨 城	68	70	＋ 2	125	113	▲ 12
栃 木	71	71	0	112	99	▲ 13
群 馬	32	33	＋ 1	99	88	▲ 11
埼 玉	10	10	0	17	15	▲ 2
千 葉	24	24	0	54	46	▲ 8
東 京	0	0	0	3	2	▲ 1
神奈川	2	2	0	12	11	▲ 1
新 潟	111	109	▲ 2	111	100	▲ 11
富 山	75	77	＋ 2	59	53	▲ 6
石 川	46	46	0	48	43	▲ 5
福 井	64	65	＋ 1	54	48	▲ 6
山 梨	18	19	＋ 1	89	99	＋ 10
長 野	51	52	＋ 1	129	120	▲ 9
岐 阜	24	25	＋ 1	44	43	▲ 1
静 岡	15	16	＋ 1	52	52	0
愛 知	11	12	＋ 1	31	28	▲ 3
三 重	38	40	＋ 2	60	59	▲ 1

	カロリーベース			生産額ベース		
	令和2年度 (確定値)	令和3年度 (概算値)	前年度 との差	令和2年度 (確定値)	令和3年度 (概算値)	前年度 との差
全 国	37	38	＋ 1	67	63	▲ 4
滋 賀	47	49	＋ 2	36	34	▲ 2
京 都	11	12	＋ 1	19	18	▲ 1
大 阪	1	1	0	6	5	▲ 1
兵 庫	15	16	＋ 1	34	32	▲ 2
奈 良	13	14	＋ 1	23	21	▲ 2
和歌山	27	29	＋ 2	119	119	0
鳥 取	60	61	＋ 1	142	129	▲ 13
島 根	60	63	＋ 3	105	100	▲ 5
岡 山	35	36	＋ 1	64	61	▲ 3
広 島	21	22	＋ 1	39	38	▲ 1
山 口	24	31	＋ 7	42	43	＋ 1
徳 島	41	40	▲ 1	118	110	▲ 8
香 川	33	33	0	86	81	▲ 5
愛 媛	34	37	＋ 3	111	115	＋ 4
高 知	43	46	＋ 3	170	169	▲ 1
福 岡	17	20	＋ 3	36	34	▲ 2
佐 賀	85	95	＋ 10	151	140	▲ 11
長 崎	38	41	＋ 3	142	142	0
熊 本	55	58	＋ 3	162	159	▲ 3
大 分	40	46	＋ 6	108	106	▲ 2
宮 崎	61	64	＋ 3	302	286	▲ 16
鹿児島	77	79	＋ 2	283	271	▲ 12
沖 縄	32	32	0	64	52	▲ 12

都道府県別食料自給率③

令和3年度都道府県別食料国産率（飼料自給率を反映せず）

（単位：％）

（単位：％）

	カロリーベース			生産額ベース		
	令和2年度 （確定値）	令和3年度 （概算値）	前年度 との差	令和2年度 （確定値）	令和3年度 （概算値）	前年度 との差
全 国	46	47	＋ 1	71	69	▲ 2
北海道	262	270	＋ 8	228	237	＋ 9
青 森	155	151	▲ 4	264	259	▲ 5
岩 手	155	162	＋ 7	241	231	▲ 10
宮 城	83	83	0	97	89	▲ 8
秋 田	215	220	＋ 5	165	147	▲ 18
山 形	152	157	＋ 5	196	183	▲ 13
福 島	86	84	▲ 2	98	89	▲ 9
茨 城	87	88	＋ 1	134	125	▲ 9
栃 木	92	93	＋ 1	121	111	▲ 10
群 馬	53	55	＋ 2	108	101	▲ 7
埼 玉	11	11	0	18	15	▲ 3
千 葉	32	31	▲ 1	57	50	▲ 7
東 京	1	0	▲ 1	3	2	▲ 1
神奈川	2	2	0	12	11	▲ 1
新 潟	120	118	▲ 2	115	105	▲ 10
富 山	79	80	＋ 1	60	55	▲ 5
石 川	49	49	0	50	45	▲ 5
福 井	67	68	＋ 1	56	50	▲ 6
山 梨	22	23	＋ 1	91	101	＋ 10
長 野	55	56	＋ 1	130	122	▲ 8
岐 阜	32	32	0	48	48	0
静 岡	20	22	＋ 2	54	55	＋ 1
愛 知	16	16	0	33	31	▲ 2
三 重	49	50	＋ 1	64	65	＋ 1

	カロリーベース			生産額ベース		
	令和2年度 （確定値）	令和3年度 （概算値）	前年度 との差	令和2年度 （確定値）	令和3年度 （概算値）	前年度 との差
全 国	46	47	＋ 1	71	69	▲ 2
滋 賀	49	50	＋ 1	37	35	▲ 2
京 都	13	14	＋ 1	20	20	0
大 阪	1	1	0	6	5	▲ 1
兵 庫	19	19	0	36	35	▲ 1
奈 良	15	16	＋ 1	23	21	▲ 2
和歌山	29	30	＋ 1	120	120	0
鳥 取	79	79	0	151	140	▲ 11
島 根	72	74	＋ 2	110	106	▲ 4
岡 山	49	51	＋ 2	70	69	▲ 1
広 島	29	30	＋ 1	43	43	0
山 口	29	36	＋ 7	44	47	＋ 3
徳 島	54	52	▲ 2	123	119	▲ 4
香 川	49	48	▲ 1	93	89	▲ 4
愛 媛	43	46	＋ 3	115	120	＋ 5
高 知	47	50	＋ 3	172	171	▲ 1
福 岡	20	22	＋ 2	37	35	▲ 2
佐 賀	97	107	＋ 10	158	150	▲ 8
長 崎	50	54	＋ 4	148	151	＋ 3
熊 本	74	79	＋ 5	172	173	＋ 1
大 分	52	59	＋ 7	114	115	＋ 1
宮 崎	131	134	＋ 3	339	339	0
鹿児島	145	146	＋ 1	319	321	＋ 2
沖 縄	40	41	＋ 1	68	58	▲ 10

都道府県別食料自給率④

都道府県別食料自給率の推移

(単位：％)

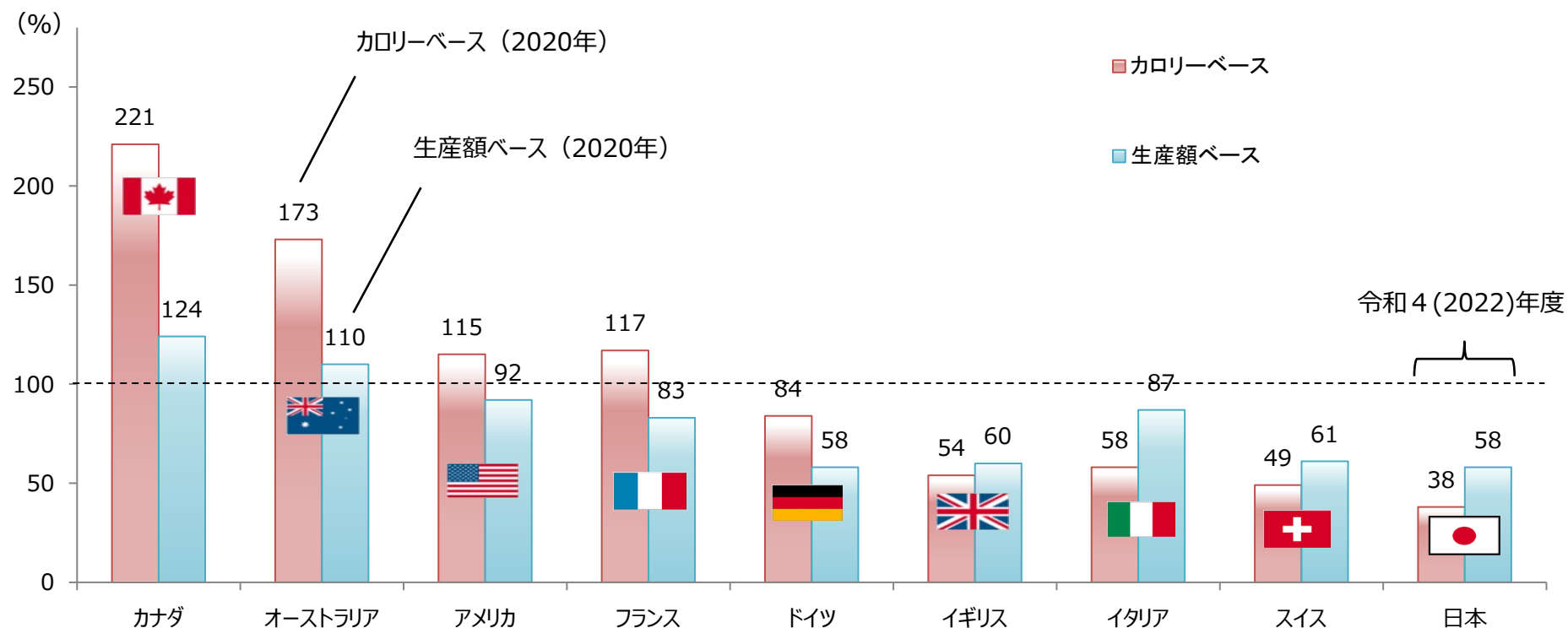
	カロリーベース										
	平成								令和		
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度 (概算値)
全 国	39	39	39	39	39	38	38	37	38	37	38
北海道	191	200	198	207	222	185	206	196	216	217	223
青 森	112	118	118	124	124	120	117	120	123	125	120
岩 手	103	105	105	111	110	103	101	106	107	105	108
宮 城	69	72	74	76	73	72	70	74	73	72	72
秋 田	178	177	181	191	197	192	188	190	205	200	204
山 形	132	133	136	142	142	139	137	135	145	143	147
福 島	72	72	76	77	77	75	75	78	78	77	75
茨 城	70	72	72	75	70	70	72	70	66	68	70
栃 木	75	72	75	73	70	70	68	73	71	71	71
群 馬	33	34	34	33	33	32	33	33	32	32	33
埼 玉	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
千 葉	29	28	28	28	27	27	26	26	24	24	24
東 京	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
神奈川	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
新 潟	102	103	104	105	105	112	103	107	109	111	109
富 山	77	74	76	78	83	79	76	78	76	75	77
石 川	50	48	49	48	51	49	47	48	47	46	46
福 井	66	64	65	64	68	68	66	66	66	64	65
山 梨	20	20	19	19	19	20	19	19	19	18	19
長 野	52	53	53	52	54	53	54	53	53	51	52
岐 阜	26	26	26	26	25	24	25	24	25	24	25
静 岡	18	17	17	17	17	17	16	16	15	15	16
愛 知	13	13	13	13	12	12	12	11	12	11	12
三 重	42	43	43	43	42	42	40	40	39	38	40
滋 賀	49	50	50	50	51	51	49	48	49	47	49
京 都	12	12	13	12	13	12	12	12	12	11	12
大 阪	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
兵 庫	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	16
奈 良	15	14	15	14	15	15	14	14	14	13	14
和歌山	30	29	30	30	30	29	28	28	28	27	29
鳥 取	63	63	62	62	63	62	63	62	61	60	61
島 根	70	66	67	65	65	66	67	66	61	60	63
岡 山	39	37	37	36	36	36	37	36	36	35	36
広 島	24	24	24	23	23	23	23	22	21	21	22
山 口	34	32	32	31	32	32	32	32	29	24	31
徳 島	44	44	45	43	42	43	42	41	41	41	40
香 川	36	36	37	34	34	35	34	33	33	33	33
愛 媛	38	37	37	37	37	37	36	36	35	34	37
高 知	49	47	48	47	47	46	47	47	43	43	46
福 岡	21	21	20	20	20	19	20	20	19	17	20
佐 賀	99	95	91	91	93	87	93	95	72	85	95
長 崎	46	44	44	44	46	45	47	45	39	38	41
熊 本	61	58	59	60	58	58	58	59	56	55	58
大 分	50	48	48	49	46	47	47	47	42	40	46
宮 崎	65	63	67	67	66	66	65	64	60	61	64
鹿児島	86	81	88	84	84	87	82	79	78	77	79
沖 縄	23	29	27	30	25	36	33	27	34	32	32

(単位：％)

	生産額ベース										
	平成								令和		
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度 (概算値)
全 国	67	68	66	64	66	68	66	66	66	67	63
北海道	204	202	206	208	212	209	204	214	211	217	220
青 森	216	227	215	223	235	260	236	238	241	250	240
岩 手	172	180	179	178	182	188	194	200	199	216	197
宮 城	76	83	85	82	84	87	91	93	96	92	82
秋 田	137	147	138	120	123	134	141	150	163	158	138
山 形	159	174	169	156	163	168	173	181	191	190	175
福 島	85	91	91	81	85	89	88	92	93	94	84
茨 城	119	123	125	121	125	133	136	120	122	125	113
栃 木	117	121	113	105	112	120	106	108	110	112	99
群 馬	93	93	94	95	101	103	100	93	96	99	88
埼 玉	23	23	22	21	21	22	20	17	17	17	15
千 葉	69	69	67	66	66	70	68	62	60	54	46
東 京	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2
神奈川	14	14	13	12	13	14	13	11	12	12	11
新 潟	116	115	114	105	98	104	104	108	112	111	100
富 山	64	65	65	59	58	61	60	63	63	59	53
石 川	59	55	54	49	49	52	50	51	50	48	43
福 井	58	58	54	51	51	55	57	58	59	54	48
山 梨	87	85	83	79	77	85	83	87	85	89	99
長 野	122	125	120	119	123	126	125	130	134	129	120
岐 阜	48	50	47	45	48	48	44	43	43	44	43
静 岡	55	57	53	53	55	57	57	54	53	52	52
愛 知	34	35	34	32	32	33	34	32	32	31	28
三 重	69	71	69	65	65	66	65	63	64	60	59
滋 賀	36	40	38	34	34	36	37	37	38	36	34
京 都	23	23	22	21	24	22	20	19	19	19	18
大 阪	6	6	5	5	5	5	5	6	6	6	5
兵 庫	36	38	35	36	37	40	38	38	38	34	32
奈 良	26	29	25	22	22	25	23	22	23	23	21
和歌山	113	113	100	96	101	113	116	113	110	119	119
鳥 取	120	118	116	116	120	131	131	130	135	142	129
島 根	100	101	99	93	94	103	101	105	106	105	100
岡 山	66	67	62	59	60	65	63	60	62	64	61
広 島	38	39	38	36	38	39	39	38	39	39	38
山 口	50	50	46	43	42	45	45	44	44	42	43
徳 島	134	135	124	117	127	132	122	113	116	118	110
香 川	92	96	88	85	91	99	93	90	92	86	81
愛 媛	128	119	120	107	109	122	112	114	114	111	115
高 知	159	165	147	147	158	164	169	175	170	170	169
福 岡	44	45	42	39	40	40	39	37	36	36	34
佐 賀	150	156	142	144	150	155	152	151	136	151	140
長 崎	145	138	136	137	141	143	147	139	145	142	142
熊 本	151	159	153	149	152	159	156	158	159	162	159
大 分	134	132	126	128	123	125	113	115	114	108	106
宮 崎	244	251	266	278	285	293	281	281	284	302	286
鹿児島	242	232	236	249	259	264	268	265	275	283	271
沖 縄	50	52	52	55	53	57	57	63	63	64	52

- 諸外国の食料自給率の試算値を比較すると、
 - ① カロリーベースについては、国内の消費人口が小さく、カロリーベースに寄与する穀物、油糧種子等の生産量が多いカナダ、オーストラリア等の国が上位に位置づけられる一方、
 - ② 生産額ベースについては、野菜・果実等の輸出量が多いイタリアがドイツ、イギリスを上回るなど、カロリーに比して価格の高い野菜・果実、畜産物の動向がより反映される傾向にあります。
- 我が国の食料自給率は、諸外国と比較すると、カロリーベース、生産額ベースともに低い水準にあります。

○ 我が国と諸外国の食料自給率



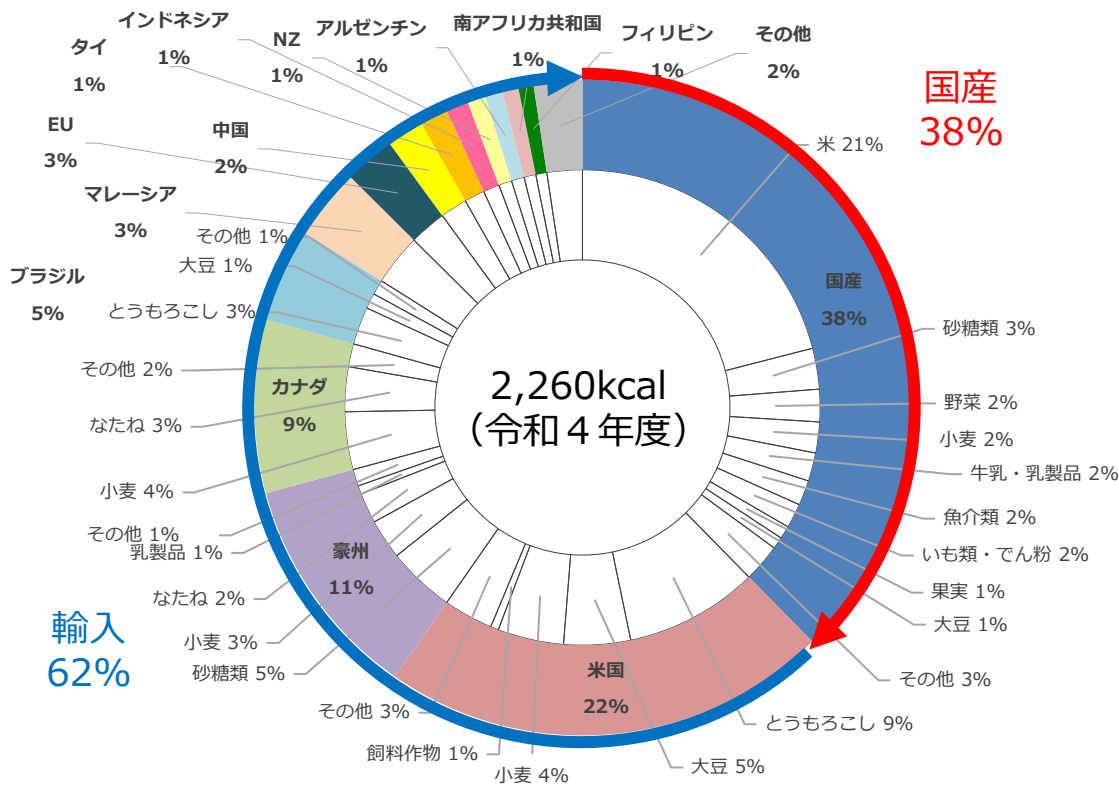
資料：農林水産省「食料需給表」、FAO“Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。（アルコール類等は含まない）

注1：数値は暦年（日本のみ年度）。スイス（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載。

注2：畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

- 我が国の食料供給は、国産（38%）と、米国（22%）、豪州（11%）、カナダ（9%）、ブラジル（5%）からの輸入で供給熱量の大部分（84%）を占めている。
- 我が国への輸出品目の多くは、自給率が100%を超えている。

我が国の供給カロリーの国別構成（試算）：令和4年度



輸入先国の主な品目の自給率（2020年）

国名	主な品目の自給率（重量ベース）
米国	とうもろこし（110%）、大豆（180%）、小麦（154%）
豪州	砂糖類（362%）、小麦（226%）、なたね（229%）
カナダ	小麦（375%）、なたね（171%）、大豆（283%）
ブラジル	とうもろこし（147%）、大豆（204%）、鶏肉（140%）
マレーシア	パーム油（307%）
EU	牛乳・乳製品（108%）、豚肉（133%）、オリーブ油（130%）
中国	野菜（104%）、果実（99%）、魚介類（91%）
タイ	砂糖類（222%）、鶏肉（199%）
インドネシア	パーム油（258%）
NZ	牛乳・乳製品（217%）
アルゼンチン	とうもろこし（276%）
南アフリカ	とうもろこし（137%）
フィリピン	果実（136%）
メキシコ	豚肉（67%）、果実（124%）
チリ	魚介類（279%）
ロシア	魚介類（154%）
ノルウェー	魚介類（206%）

注1：輸入熱量は供給熱量と国産熱量の差とし、輸出、在庫分は捨象した。

注2：主要品目の国・地域別の輸入熱量を、農林水産省「令和4年農林水産物輸出入概況」の各品目の国・地域毎の輸入量で按分して試算した。

注3：輸入飼料による畜産物の生産分は輸入熱量としており、この輸入熱量については、主な輸入飼料の国・地域毎の輸入量（TDN（可消化養分総量）換算）で按分した。

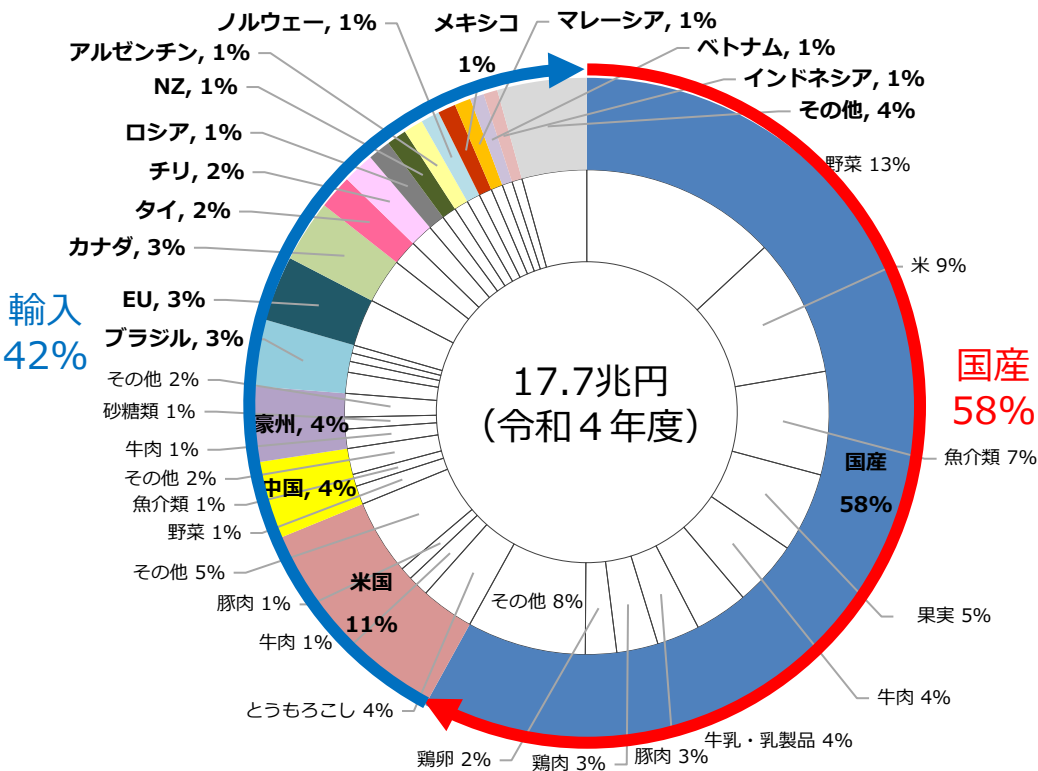
注：各国・地域の主な品目の自給率は、FAO “Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。

供給カロリーの国別・品目別構成（試算）：令和4年度

国名	品目名	熱量 (kcal)	割合	国名	品目名	熱量 (kcal)	割合	国名	品目名	熱量 (kcal)	割合
国産	(合計)	850	37.6%	豪州	(合計)	251	11.1%	中国（続き）			
	米	474	21.0%		砂糖類	104	4.6%		大豆油かす	4	0.2%
	砂糖類	63	2.8%		小麦	61	2.7%		鶏肉	4	0.2%
	野菜	50	2.2%		なたね	47	2.1%		飼料作物	2	0.1%
	小麦	47	2.1%		乳製品	13	0.6%	タイ	(合計)	31	1.4%
	牛乳・乳製品	44	1.9%		牛肉	9	0.4%		砂糖類	17	0.7%
	魚介類	39	1.7%		飼料作物	4	0.2%		鶏肉	9	0.4%
	いも類・でん粉	38	1.7%	カナダ	(合計)	193	8.5%	インドネシア	(合計)	25	1.1%
	果実	20	0.9%		小麦	89	3.9%		パーム油	21	0.9%
	大豆	18	0.8%		なたね	69	3.0%	NZ	(合計)	20	0.9%
	鶏卵	8	0.4%		大豆	12	0.5%		乳製品	16	0.7%
	植物油脂	8	0.3%		豚肉	9	0.4%	アルゼンチン	(合計)	20	0.9%
	牛肉	6	0.3%	ブラジル	(合計)	105	4.6%		とうもろこし	14	0.6%
	鶏肉	5	0.2%		とうもろこし	58	2.6%	南アフリカ	(合計)	18	0.8%
	豚肉	5	0.2%		大豆	24	1.0%		とうもろこし	16	0.7%
	海藻類	4	0.2%		鶏肉	8	0.3%	フィリピン	(合計)	17	0.7%
米国	(合計)	497	22.0%		大豆油かす	7	0.3%		果実	12	0.5%
	とうもろこし	205	9.1%	マレーシア	(合計)	79	3.5%		やし油	4	0.2%
	大豆	102	4.5%		パーム油	75	3.3%	メキシコ	(合計)	9	0.4%
	小麦	101	4.5%	EU	(合計)	57	2.5%		豚肉	5	0.2%
	飼料作物	12	0.5%		乳製品	24	1.1%		果実	2	0.1%
	豚肉	10	0.4%		豚肉	14	0.6%	チリ	(合計)	8	0.3%
	牛肉	9	0.4%		オリーブ油	8	0.4%		魚介類	4	0.2%
	乳製品	9	0.4%		ばれいしょ	3	0.1%	ロシア	(合計)	5	0.2%
	ばれいしょ	7	0.3%		果実	2	0.1%		魚介類	3	0.1%
	魚介類	6	0.3%	中国	(合計)	41	1.8%	ノルウェー	(合計)	4	0.2%
	果実	3	0.1%		野菜	12	0.5%		魚介類	4	0.2%
	大豆油かす	3	0.1%		果実	10	0.4%				
	野菜	2	0.1%		魚介類	4	0.2%	計		2,260	100.0%

- 生産額ベースでは、国産（58%）と、米国（11%）、中国（4%）、豪州（4%）、ブラジル（3%）からの輸入で食料消費額の大部分（79%）を占めている。
- 我が国への輸出品目の多くは、自給率が100%を超えている。

我が国の食料消費額の国別構成（試算）：令和4年度



輸入先国の主な品目の自給率（2020年）

国名	主な品目の自給率（重量ベース）
米国	とうもろこし（110%）、牛肉（99%）、魚介類（63%）
中国	野菜（104%）、魚介類（91%）、果実（99%）
豪州	牛肉（251%）、砂糖類（362%）、なたね（229%）
ブラジル	とうもろこし（147%）、鶏肉（140%）、大豆（204%）
EU	豚肉（133%）、牛乳・乳製品（108%）、魚介類（52%）
カナダ	豚肉（232%）、なたね（171%）、小麦（375%）
タイ	鶏肉（199%）、魚介類（107%）、野菜（94%）
チリ	魚介類（279%）、果実（182%）
ロシア	魚介類（154%）
NZ	牛乳・乳製品（217%）、牛肉（783%）、果実（196%）
アルゼンチン	とうもろこし（276%）、魚介類（286%）
ノルウェー	魚介類（206%）
メキシコ	豚肉（67%）、果実（124%）、牛肉（111%）
マレーシア	パーム油（307%）
ベトナム	魚介類（145%）
インドネシア	魚介類（106%）、パーム油（258%）
台湾	魚介類（107%）
韓国	魚介類（59%）
フィリピン	果実（136%）
インド	魚介類（114%）
南アフリカ	とうもろこし（137%）

注1：輸入額は国内消費仕向額と国内生産額の差とし、輸出、在庫分は捨象した。
注2：主要品目の国・地域別の輸入額を、農林水産省「令和4年農林水産物輸出入概況」の各品目の国・地域毎の輸入額で按分して試算した。
注3：消費段階の価格ではなく、生産・輸入段階の価格で評価した金額である。

注：各国・地域の主な品目の自給率は、FAO “Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。

我が国の食料供給の概観④

食料消費額の国別構成（試算）：令和4年度

食料消費額の国別・品目別構成（試算）：令和4年度

国名	品目名	金額 (億円)	割合	国名	品目名	金額 (億円)	割合	国名	品目名	金額 (億円)	割合
国産	(合計)	102,728	57.9%	中国（続き）				ロシア	(合計)	1,927	1.1%
	野菜	23,196	13.1%		海藻類	199	0.1%		魚介類	1,858	1.0%
	米	16,270	9.2%	豪州	(合計)	6,456	3.6%	NZ	(合計)	1,707	1.0%
	魚介類	12,175	6.9%		牛肉	2,276	1.3%		乳製品	757	0.4%
	果実	9,397	5.3%		砂糖類	1,408	0.8%		牛肉	346	0.2%
	牛肉	7,730	4.4%		なたね	963	0.5%		果実	333	0.2%
	牛乳・乳製品	6,283	3.5%		小麦	679	0.4%		魚介類	191	0.1%
	豚肉	5,070	2.9%		乳製品	611	0.3%	アルゼンチン	(合計)	1,667	0.9%
	鶏肉	4,887	2.8%		魚介類	226	0.1%		とうもろこし	793	0.4%
	鶏卵	3,683	2.1%	ブラジル	(合計)	5,698	3.2%		魚介類	361	0.2%
	きのこ類	2,082	1.2%		とうもろこし	2,476	1.4%		大豆油かす	304	0.2%
	植物油脂	1,994	1.1%		大豆油かす	1,283	0.7%	ノルウェー	(合計)	1,592	0.9%
	砂糖類	1,958	1.1%		鶏肉	1,071	0.6%		魚介類	1,559	0.9%
	海藻類	1,040	0.6%		大豆	439	0.2%	メキシコ	(合計)	1,531	0.9%
	かんしょ	927	0.5%		果実	210	0.1%		豚肉	803	0.5%
	ばれいしょ	891	0.5%	EU	(合計)	5,588	3.2%		果実	355	0.2%
	小麦	647	0.4%		豚肉	2,054	1.2%		牛肉	242	0.1%
	大豆	400	0.2%		乳製品	1,331	0.8%	マレーシア	(合計)	1,379	0.8%
	でん粉	309	0.2%		魚介類	728	0.4%		パーム油	1,295	0.7%
米国	(合計)	19,094	10.8%		オリーブ油	479	0.3%	ベトナム	(合計)	1,198	0.7%
	とうもろこし	6,277	3.5%		果実	391	0.2%		魚介類	914	0.5%
	牛肉	2,487	1.4%		ばれいしょ	245	0.1%	インドネシア	(合計)	1,196	0.7%
	魚介類	1,929	1.1%	カナダ	(合計)	5,315	3.0%		魚介類	671	0.4%
	大豆	1,864	1.1%		豚肉	1,353	0.8%		パーム油	365	0.2%
	豚肉	1,469	0.8%		なたね	1,307	0.7%	台湾	(合計)	1,044	0.6%
	小麦	1,303	0.7%		小麦	1,155	0.7%		魚介類	720	0.4%
	果実	878	0.5%		魚介類	540	0.3%	韓国	(合計)	1,008	0.6%
	ばれいしょ	725	0.4%		牛肉	444	0.3%		魚介類	619	0.3%
	大豆油かす	598	0.3%		大豆	281	0.2%	フィリピン	(合計)	982	0.6%
	乳製品	494	0.3%	タイ	(合計)	2,920	1.6%		果実	814	0.5%
	野菜	485	0.3%		鶏肉	2,017	1.1%	インド	(合計)	963	0.5%
中国	(合計)	6,697	3.8%		魚介類	366	0.2%		魚介類	724	0.4%
	野菜	2,201	1.2%		野菜	225	0.1%	南アフリカ	(合計)	598	0.3%
	魚介類	1,425	0.8%		果実	196	0.1%		とうもろこし	474	0.3%
	果実	1,008	0.6%	チリ	(合計)	2,698	1.5%				
	鶏肉	857	0.5%		魚介類	2,231	1.3%	計		177,300	100.0%
	大豆油かす	568	0.3%		果実	221	0.1%				